

## 重症度を考慮した評価手法（CCP マトリックス）について（案）

### 1. 背景

- 最新の診療実態や技術革新を反映し、医療資源必要度を正確に反映させるべく診療報酬改定時に DPC（診断群分類）の見直しを実施している。
- 現行のツリー図と定義テーブルを用いる評価方法の場合、DPC の精緻化を進めるためには新たな分岐の作成が必要となるため、支払分類数が細分化しすぎる可能性がある。

（参考：診断群分類数の推移）

改定時期	DPC 総数	うち包括対象 DPC 数（※）
平成 15 年 4 月	2,552	1,860
平成 16 年 4 月	3,074	1,726
平成 18 年 4 月	2,347	1,438
平成 20 年 4 月	2,451	1,572
平成 22 年 4 月	2,658	1,880
平成 24 年 4 月	2,927	2,241

※ 改定時点で包括対象となっている DPC 数

- こうした背景を踏まえ、現在、厚生労働省研究班（伏見班）において、重症度等による医療資源必要度の違いの正確な反映と支払分類数のコントロールの両立を可能とする新たな評価手法（CCP マトリックス）について検討が行われている。

### 2. CCP マトリックスにかかる今後の対応について（案）

- 現行のツリー図および定義テーブルを用いた評価手法からの CCP マトリックスへの移行については、現場での診療報酬請求・支払システムの仕様の対応、償還価格の決定のために必要なデータの収集等の様々な課題があるため、平成 26 年度診療報酬改定での導入することは困難であると考えられるが、中長期的な課題として今後も引き続き検討することとしてはどうか。
- CCP マトリックスの導入を検討するにあたり、今年度の DPC 検討 WG（MDC 班会議）においても、診断群分類の検討及び様式 I に関連する課題等の整理を行うこととしてはどうか。